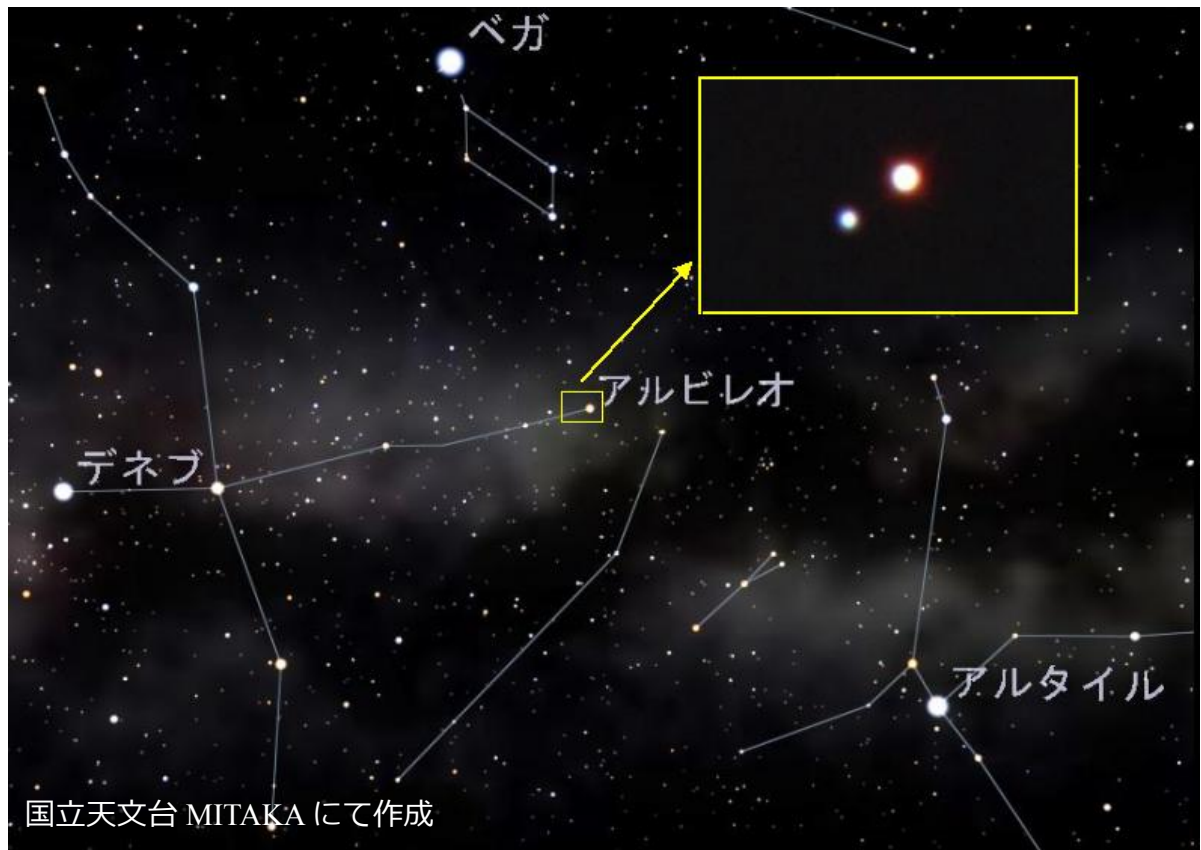


星をみせし...

2014. Summer Vol. 26



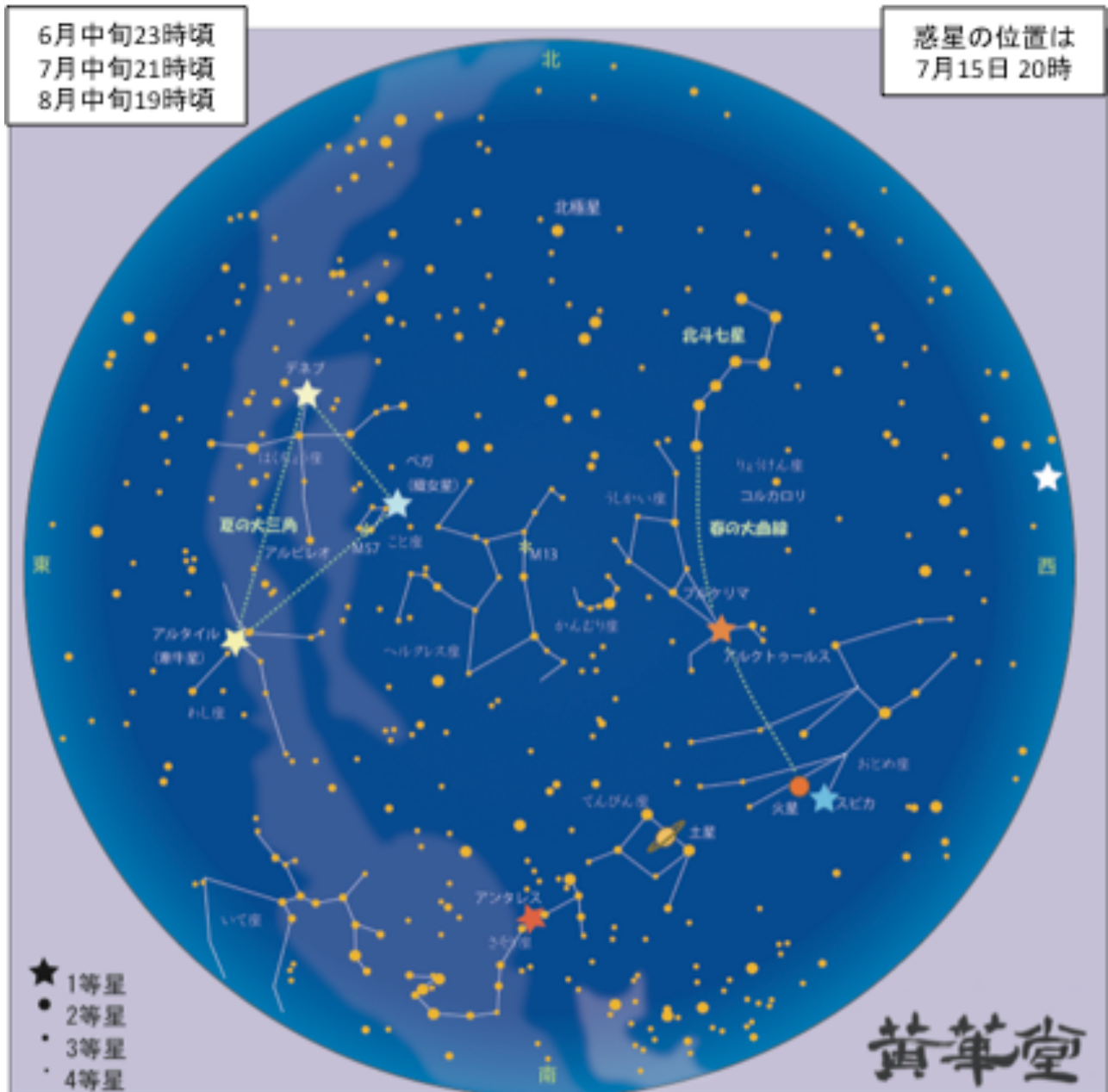
アルビレオ: はくちょう座ベータ星

観望会で人気なのはやはり土星や木星などの惑星です。望遠鏡を覗けば輪や縞や衛星が見られます。では点にしか見えない恒星は望遠鏡で見てもつまらないのでしょうか？そんなことはありません。望遠鏡で多くの光を集めれば色を感じる錐体細胞 (すいたいさいぼう) が働きます。

錐体細胞の働きが確認できる星の代表格がはくちょう座のアルビレオです。夏の大三角のベガとアルタイルの真ん中から少しベガより。はくちょうの嘴 (くちばし) に望遠鏡を向けて錐体細胞を働かせてみましょう。

(尾崎勝彦 / マリアホスピスボランティア)

見上げてごらん「夏の星空と星座」



夜半には天の川が頭上に輝く季節となりました。天の川は空が暗いところに行かなければ見つかりませんが、明るい星たちは街の明かりにも負けずに輝きます。空を見上げれば夏の大三角がすぐに見つかるでしょう。7月下旬から8月下旬にかけては多くの流星群が見られる時期です。7月29日にみずがめ座デルタ北流星群、29日にはみずがめ座デルタ南流星群、30日にはやぎ座アルファ流星群がピークとなり、8月は13日ごろにペルセウス座流星群、18日にはくちょう座カッパ流星群がそれぞれ極大となります。ただ今年8月11日が満なので8月中旬の観測条件はよくありません。ちなみに8月11日の満月はスーパームーンで今年地球に最も近づきます(距離35万6896 km)。

★伝統的七夕

七夕と言えば7月7日。この日にはぜひ天の川を眺めたいですね。しかし、例年7月7日頃は梅雨の真っ最中。“七夕の日は晴天率が低い”ということを目にするのも多いですね。実際に気象庁の過去30年のデータから調べてみると、大阪における7月7日の晴天率は約30%で、雨が降った日の割合は40%にもものぼります。七夕の日に星が見られる確率は低そうですね。しかし、七夕は伝統的には昔の暦に基づいています。みなさん、国語の授業で習いましたよね? 「七夕」は秋の季語です。昔の暦では、12ヶ月を4つに分け1—3月を春、4—6月を夏、7—9月を冬、そして10—12月を冬としていました。昔の暦における7月7日は現在の暦では8月に当たります。日付はその年によって異なり、2014年は8月2日が“伝統的”七夕です。8月になると梅雨は明け天気が安定してくるので星が見やすくなります。また、昔の暦において日付はおおよそその月の満ち欠けを表していました。7日の月は上弦(半月)の前後で、日没頃に南中し夜半には西の空に沈んで行きます。そのため夜が更ければ月の光に邪魔されずに星空を楽しめるのが七夕なのです。今年は8月2日に伝統的七夕の星空を楽しみましょう。

★400文字のギリシア神話★

や座 (Sagitta)

～愛の天使の愛の物語～

=矢座の神話はいくつもありますが、今回は恋の天使に関するものを紹介します。=

とある国にプシュケという美しい娘がいました。美の女神であるアフロディーテ（英語名ビーナス）はその噂に嫉妬し、息子である恋の天使エロス（キューピット）をプシュケの元に送り、鉛の矢で恋ができなくなるようにしようとしました。しかし、エロスは彼女の美しさに見とれ、誤って自分の胸を恋の矢の方で傷つけてしまったため、プシュケに恋をしました。プシュケは神託によりエロスと結婚しました。ただ、神が人間と結婚するためには「その姿を見せてはいけない」という掟があったため、プシュケはすばらしい宮殿に住み幸せに生活しながらも夫の姿は見たことがありませんでした。ある夜、彼女は姉たちの意見もあり夫の姿を見てしまいました。神の掟を破ったプシュケは気を失い、目覚めたときには城も中庭も夫とともに消えてしまっていました。その後、エロスは大神ゼウスにお願いしてプシュケも神の国で暮らせるようになったそうです。そしてプシュケは花嫁と花婿の家族におせっかいをやめさせることが仕事となりました。

(蜂屋正雄 / 滋賀県立琵琶湖博物館)

☆楽しい天文学☆

系外惑星

～つぎつぎ見つかる不思議な惑星～

太陽系には8個の惑星がありますが、それぞれどんな星か知っていますか？水星・金星・地球・火星は岩石でできた惑星です。木星・土星は岩石の惑星に比べて大きいガスの惑星です。また、天王星・海王星は太陽から遠く寒い場所にある氷の惑星です。

最近になって太陽以外の恒星の周りの惑星が見つかるようになってきました。これを『系外惑星』と呼び、太陽系の惑星とは全く違った不思議な惑星がたくさん見つかってきています。

最初に見つかった系外惑星は『ホット・ジュピター』と呼ばれ、恒星に近い場所にあるために表面温度が1000度を超えるガスの惑星です。さらに恒星に近い所にあるにもかかわらず氷に覆われている、『ホット・ネプチューン』と呼ばれる惑星も見つかっています。このような不思議な惑星が多く見つかっている系外惑星探査ですが、もっと技術が進めば生命が存在するような『第二の地球』が見つかる日も遠くないのかもしれませんが。

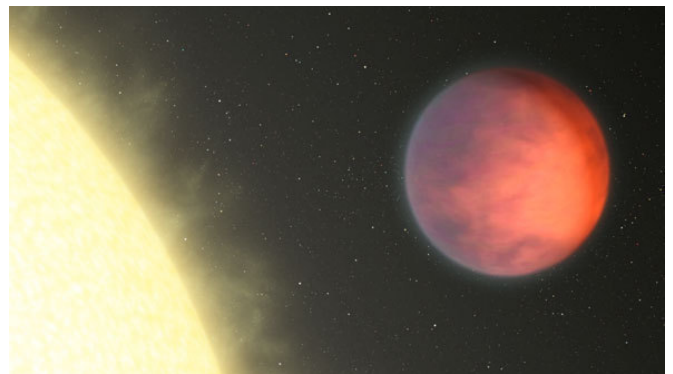


図: ホット・ジュピターの想像図。
(NASA/JPL-Caltech)

(小野 智弘 / 京都大学)

“子どもたちに本物の星空を!”をテーマに活動している天文ボランティアグループ

Mail : info@oukado.org

HP : <http://www.oukado.org/>

あなたも黄華堂(おうかどう)に参加しませんか?メールでご連絡ください。

黄華堂

